

異文化交流研修報告 ～バリ島の大学との教育交流～

藤 田 利 久

(異文化理解担当)

本学の「創立25周年」を記念して教職員海外教育視察研修を2011年に企画し、同年に第1回教職員海外研修を実施しました。ボーダレスやグローバルといった言葉が定着した今日、教職員に限らず、学生にもこの感覚を身につけさせたいと、2016年度より「異文化理解（選択2単位）」を授業科目として設け、教職員と学生合同の異文化交流研修としてバリ島の大学や幼稚園との交流を開始しました。グローバル化・ボーダレス化に対応し、ダイバーシティの理解を含めた視点からの内容を盛り込んだ保育者養成が、これからの時代はさらに重要になって来ると感じています。

このために本学の教職員がグローバルやダイバーシティの理解と考える学生教育にあたり、学生も教職員のこの考えや行動を理解して授業に臨み、意識することなく自然な姿勢でこのことが実

行できるようにと考えております。そこで、昨年度に引き続き、今年度も第2回の学生と教職員の異文化交流研修を実施しました。

研修では大学や幼児教育施設をはじめとする関係機関を訪問し、教職員は自らの目で見、耳で聴き、身体で感じたことなどを通して得られた内容や方法などを本学の教育にとり入れ、学生は他国の幼児教育を体験し、学びへの取り組み姿勢や行動から、自分自身を見直す材料として何かを感じる事ができればと強く思っております。この思いが教員や学生に伝わるよう継続的に実施していきたいと考えています。当然のことながら、国内の大学や短大、幼稚園や保育所などの教育・保育施設の見学の延長線上で、異文化交流研修も重要であると考えての実施です。これまでの海外研修での主な訪問先は次のとおりです。

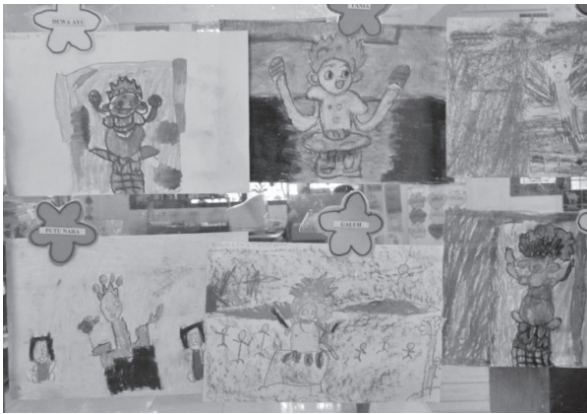
平成23年3月	Santa Barbara City College, Paso Roblesの小学校 Montessori Preschool (カリフォルニア州) など
平成24年3月	The University of Central Florida (フロリダ州) など
平成25年3月	Virginia Western Community College, Liberty University, Hollins University, YMCA Preschool (バージニア州) など
平成26年3月	Universitat Autònoma de Barcelona (スペイン) など
平成27年3月	サラスワティ外国語大学 カシサヤン幼稚園 (インドネシア)
平成29年3月	在デンパサル日本総領事館, サラスワティ外国語大学・同付属幼稚園 国立ガネシャ教育大学・同付属幼稚園, カシサヤン幼稚園 タマン・ラマスクール幼稚園 (インターナショナル)
平成30年3月	在デンパサル日本総領事館, サラスワティ外国語大学, 国立ガネシャ教育大学, 国立幼稚園 (TK Negeri Pembina Denpasar)

今回の研修は期間中のウィークディが3日間と短いものであったため、訪問先はインドネシア共

和国バリ州にある「サラスワティ外国語大学」・「国立ガネシャ教育大学」・「国立幼稚園 (TK Negeri

Pembina Denpasar)」の2大学と1幼児教育機関と在デンパサール日本総領事館でした。

本学の異文化交流研修先が、なぜバリ島の大学や幼稚園であるのかと不思議に思われる方もいるでしょう。上記のこれまでの研修先にあるとおり、アメリカ合衆国やスペインの大学や幼稚園・小学校にも教職員研修で訪問しました。特に明治以降これまでの日本は技術的先進国であったヨーロッパやアメリカなど地球上の東西を横切る横のライン上の西洋の国々を常に意識し、多くのことをこれらの国々から学びました。その結果、忘れ去られたものも多くあるのではないかと感じ、極東アジアにある日本は南北縦のライン上の文化的にも似通っている東南アジアの国々を意識しなければと感じています。



東南アジアの国々の人々から今日の我々が失いはじめている事柄を今一度学び直し、日本の教育もその国々に紹介するといった文化的交流を図ることによって、お互いに向上できればと考えています。そのために、研修先をバリ島に決定するまでに、タイ国（コンケン大学）やマレーシア（ニライ大学）、カンボジア、ミャンマー、ベトナムの大学などを訪問しました。

しかし、しっくりと来ない何かを感じておりましたときに、インドネシアのバリの幼稚園と大学の紹介を受けました。さっそく、バリ州デンパサールに2015年3月に、教職員6名で下見を兼ね視察と教育交流に参りました。バリの保育や授業を視察するだけでなく、本学の教員がバリの幼稚園児に日本の幼児教育で行っている踊りや遊び、折り紙や歌などを教えました。大学生には日本の文化

や日本の若者についてプレゼンテーションを行い、バリの大学生もバリの若者文化についてのプレゼンテーションを行った後、意見を交換するなどの教育文化交流をしました。



このような学校関係者や現地の人々との交流をととしてバリの人々と何か通じるものがあるような不思議な感覚にとらわれました。ものの捉え方や考え方、行動などにかつての日本を感じることができたことや町から少し離れた農村部の人々の生活や風景に日本の原風景を見たような気がしたので。これは土着宗教の上に外国からの宗教（仏教徒とヒンドゥー教）をうまく取り入れ融合させながら精神基盤にしたところが互いに似ているからかもしれません。

さらに、この訪問でバリ島の人々の雰囲気、紹介を受けたカシサヤン幼稚園・小学校の先生や子供たち、サラスワティ外国語大学の学長や日本語担当の先生はじめ先生方や学生の熱心なその姿に感激し、その場で、来年度以降の学生・教職員交流研修実施の打ち合わせをしてしまいました。しかし、2016年3月実施予定の第1回の学生・教職員交流研修（団長：小澤和恵）は直前のテロ予告で急きょ中止せざるをえませんでした。結局、何ごとも起こりませんでした。結局、学生や教職員の安全第一を考えての中止でした。

第2回学生・教職員交流研修（団長：小澤和恵）は何事もなく無事順調に実施することができました。学生たちの収穫はたいへん大きなものだったようです。いかに自分たち日本の人々が恵まれているか、いかに自分たちが甘えの中で生活しているか、勉学に取り組む姿勢を改めなければならな

い、など非日常に身を置くことで自分自身を見つめなおすことができたとのことでした。

この時に本学にとって特記すべきことが用意されていました。前回訪問時に今後も交流研修を続けていきたいと話をしたことは確かです。そのことをサラスワティ外国語大学側が交流協定を締結して今後も教育交流を続けていきたいと準備を整えておいてくれたことです。事前にこのような話をできればよい程度に考えておりましたが、これほどきちんと準備をしていただけるとは夢にも思っておりませんで、こちらの準備が十分でなかったのが驚きましたが、それ以上に感動を覚えた瞬間でした。また、この回は、事前をお願いしてありました国立ガネシャ教育大学の訪問もベティ先生のご尽力で正式に訪問することもできました。



学生・教職員交流研修も第3回となった今回は、参加者募集時にアグン山の噴火がありバリの空港が一時閉鎖になるなどの報道で、参加学生は6名となりましたが、昨年同様教職員5名（団長：金子恵美子）参加で実施することができました。今回の実施にあたって、サラスワティ外国語大学日本語学科のベティ先生に企画段階から研修先の幼稚園や大学との打ち合わせ、現地での進行などでたいへんお世話になりました。また、サラスワティ外国語大学の日本語学科の学生にも旅行期間中、通訳と案内をしていただき、本学の学生には学ぶことも多かったと思います。

このように今回の研修もたいへん有意義なものとなりましたが、それぞれの訪問先である大学や幼稚園などについて、詳しくは各教員の報告で述べておりますので、ここでは概略をお伝えします。今回は研修初日が土曜日であったことから、バリの歴史や文化を体感するために、サラスワティ外国語大学のアリ君とジェイ君のガイドで市内史跡めぐりから始まりました。参加学生たちは石造建築の寺院を訪問し、そこに参拝している現地の方々を見て、日本のそれとはまったく異なるその文化と信仰の深さを感じたようで、全員これまでは見たことのないような神妙な表情でお参りをしていました。このような雰囲気の中で、一気に



バリの魅力に引き込まれたと感想をもらっていました。

月曜日には昨年と同じように在デンパサール日本領事館に表敬訪問をしました。大橋首席領事が昨年と同じように、にこやかな笑顔で迎えてくださって領事館の仕事やバリの現状を詳しくお話してくださいました。翌日からは国立幼稚園（TK Negeri Pembina Denpasar）・サラスワティ外国語大学・国立ガネシャ教育大学の訪問などで交流活動を行いました。

まず、国立幼稚園（TK Negeri Pembina Denpasar）では、園児教育への取り組みの説明の後、年齢別の教室見学や園児に対する民族舞踊の練習風景を見学しました。サラスワティ外国語大学ではスストラ学長や日本語教育学科のベティ先生やメイダ先生をはじめ日本語と英語担当の先生など多くの先生と日本語学科の学生の参加で歓迎会が催されました。サラスワティ外国語大学と本学の両学長や学生代表の挨拶の後、サラスワティ外国語大学の学生の皆さんからはバリと日本の歌やバリの華やかな伝統衣装で舞踊などを披露してくれました。これに対し、本学の教員と学生も色とりどりの浴衣に身を包み日本舞踊と歌で返礼をするなど和やかなひと時を過ごしました。続いて、サラスワティ外国語大学と本学の学生がグループに分かれ「インドネシアと日本の若者」について話し合いも行われました。このように前回と同様に両大学の学生・教職員が一つになった素晴らしい時間を過ごすことができました。



国立ガネシャ教育大学では、学長や副学長はじめ教職員と100人を超える学生が講堂に会して出迎えてくれました。舞台上には「国立ガネシャ国立学と埼玉純真短期大学の交流協定」と大きな看板が掛けられ、交換交流協定の準備がされていました。まず最初に両大学の学長の挨拶の後、両者で調印がなされました。続いて、民族衣装に身を包んだ学生たちによる伝統舞踊や昔話の劇の披露や付属幼稚園児の踊りなどで歓迎してくれました。これに応え、本学の教員と学生も浴衣姿で日本舞踊や日本の歌を披露するなどして交流行事を終えました。その後、別室でガネシャ教育大学の副学長や学部長・教員と本学の教職員で今後の交流の内容（教員同士の共同研究や学生の交換交流など）についての話し合いを行いました。やはりインドネシアでも特別支援教育に関心があり、本学での特別支援教育への取り組みにたいへん興味を示してくれました。次年度以降、具体的な学生交流や教員交流を実施できればと考えています。

ここに今回の研修旅程表を掲載いたしますが、日々の様子は参加者の報告をお読みいただければと思います。



今回も学生・教職員幼児教育研修の成功には、両大学教職員のおもてなしはもちろんのこと、サラスワティ大学の2人の学生が通訳兼ガイドとして朝から夜まで付き添ってくれたことが大きいと

感じています。彼らは日本語学科の学生で日本が大好きな学生たちでしたので、本学の学生とはすぐに仲良くなっていました。今回もいろいろな体験ができたことも、この研修をいっそう意味あるものにしてくれたのも彼らのおかげだと感謝しています。学生たちが今回体験した多くのことを、幼児教育を目指す他の学生にも、ぜひ伝えて欲しいと考えています。

今回の幼児教育研修旅行が有意義なものとなったのも、サラスワティ外国語大学・国立ガネシャ教育大学・国立幼稚園（TK Negeri Pembina Denpasar）のみなさまの全面的なご協力とご支援のおかげであると心から感謝いたします。



埼玉純真短期大学

バリ島 幼児教育研修旅程表7日間（3月2日～3月8日）

目次	月日（曜）	地 名	現地時間	交通機関	内 容	食 事
1	3月2日 （金）	東京（成田）発 デンパサール着	11：00 17：25	GA881 専用車	空路デンパサールへ（機内食1回） （直行便利用） 着後：ホテルへ ＜ウェスティンリゾート泊＞	夕：×
2	3月3日 （土）	バリ島	9：00	専用車	市内観光 ホテルビーチ散策 （サラスワティ外国語大学学生） ＜ウェスティンリゾート泊＞	朝：○ ホテル 昼：×
3	3月4日 （日）	バリ島	9：00	専用車	寺院など文化遺産見学 （サラスワティ外国語大学学生） ＜ウェスティンリゾート泊＞	夕：×
4	3月5日 （月）	バリ島	11：00	専用車	デンパサール日本領事館表敬訪問 （サラスワティ外国語大学学生） ＜ウェスティンリゾート泊＞	朝：○ ホテル 昼：×
5	3月6日 （火）	バリ島	9：00	専用車	デンパサール 国立幼稚園 訪問 （TK Negeri Pembina Denpasar） サラスワティ外国語大学（STIBA） 訪問 ＜ウェスティンリゾート泊＞	夕：×
6	3月7日 （水）	バリ島	9：00	専用車	ガネシャ教育大学訪問 （交流協定締結予定） 帰国準備 夕方 空港へ	朝：○ ホテル 昼：×
7	3月8日 （木）	デンパサール発 東京（成田）着	00:25 08:50	GA880	空路東京（羽田）へ（機内食1回） （直行便利用） ＜機中（※1）泊＞ 通関後解散，お疲れ様でした。	朝：機内